

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RDM7-015-83-2	2024通年	医学教育部(20160)	1, 2, 3, 4	2	他
科目名(講義題目)			担当教員		
機能再建医学理論【Restorative Medicine】(C7 機能再建医学理論【Restorative Medicine】)			宮本 健史, 福島 聡, 西川 武志, 安永 純一郎, 河野 宏明, 中田 浩智, 福井 寿啓, 窪田 直人		
学修成果とその割合					
1.高度な専門的知識・技能及び研究力……50% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力……30% 3.グローバルな視野と行動力……10% 4.地域社会を牽引するリーダー力……10%					
授業の形態	講義				
授業の方法	質疑応答を重視した講義形式で、Power point, OHP等を活用する。なお遠隔地の学生や社会人学生等には、補講、集中講義、ビデオ講義あるいはe-ラーニング等により対処する。				
授業の目的	近年、機能再建医学はあらゆる領域で著しく進歩している。本講義では、生命維持と生活機能の両面から機能再建医学の現状と課題について理解し、さらに機能再建医学の新たな展開のために不可欠な臨床研究の方法論について習得することを目標とする。				
学修目標	<p>【A水準】</p> <p>以下の事項を理解し、説明できるようになることを目標とする。(1)敗血症の病態と治療戦略、敗血症から臓器不全発症のメカニズム、(2)冠症候群のリスクファクター、心臓血管系疾患とその外科治療についての最新の知識、(3)心臓血管系疾患とその外科治療についての最新の知識、(4)皮膚創傷治癒のメカニズム、体表血流分布の解剖学的部位による違い、形成外科的手技や再生医学的手法、(5)骨・関節機能の破綻とその対策、(6)臨床研究を立案・実施する上で必要な基礎知識</p> <p>【C水準】</p> <p>以下の事項を概ね理解することを目標とする。(1)敗血症の病態と治療戦略、敗血症から臓器不全発症のメカニズム、(2)冠症候群のリスクファクター、心臓血管系疾患とその外科治療についての最新の知識、(3)心臓血管系疾患とその外科治療についての最新の知識、(4)皮膚創傷治癒のメカニズム、体表血流分布の解剖学的部位による違い、形成外科的手技や再生医学的手法、(5)骨・関節機能の破綻とその対策、(6)臨床研究を立案・実施する上で必要な基礎知識</p>				
授業の概要	<p>授業では、国際的な敗血症のガイドラインの新たな定義、治療戦略を理解し、新たな臨床研究の可能性について概説する。また、敗血症から臓器不全発症のメカニズムを基礎的および臨床的視点で検討する。さらに、緊急を要する代表的な疾患である冠症候群のリスクファクター、心不全・虚血性心疾患・心臓弁膜症に対する外科治療の進歩について講義する。一方、皮膚や骨・関節の障害は生命に直接関わることは少ないものの、生活機能に与える影響は大きい。授業では、皮膚創傷治癒の理論について分子生物学的な最新の知見を交えて解説し、人体の皮膚血流の研究による皮弁の進歩やマイクロサージャリーの発展に伴う血管・リンパ管・神経の再生医学について講義する。また、骨や関節機能の恒常性破綻機構の基礎を解説し、その対応の試みについて近年の研究成果を含めて紹介する。さらに本講義では、臨床研究を実施する上で不可欠な研究仮説の立て方と研究デザインの選択、臨床データの取り扱いと統計解析法について解説する。</p>				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		福島 聡 【eJ-0】	創傷治癒のメカニズム		
2		福島 聡 【eJ-0】	局所皮弁による再建-		
3		福島 聡 【eJ-0】	マイクロサージャリーを用いた再建		
4		宮本 健史 【eJ-0】	骨恒常性の維持機構とその破綻		
5		宮本 健史 【eJ-0】	関節軟骨のバイオロジー		
6		宮本 健史 【eJ-0】	炎症性関節破壊とその対策		
7		西川 武志 【eJ-0】	研究の仮説とデザイン		
8		安永 純一郎 【eJ-0】	骨髄における造血機構と造血幹細胞移植療法		
9		中田 浩智 【eJ-0】	感染症と免疫構築～HIV感染と敗血症～		
10		河野 宏明 【eJ-0】	冠動脈疾患の危険因子と性差		
11		福井 寿啓 【eJ-0】	心不全の外科治療の進歩		
12		福井 寿啓 【eJ-0】	虚血性心疾患の外科治療		
13		福井 寿啓 【eJ-0】	心臓弁膜症の外科治療		
14		窪田 直人 【eJ-0】	糖尿病合併症研究から考える研究の仮説とデザイン		
15		河野宏明 【eJ-0】	XY遺伝子関連疾患について		
授業外学修時間の目安	・本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30時間分(2h×15コマ)となるため、60時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	特に指定はせず、講義のポイントをまとめたプリントを配布する。				
参考文献	授業中に適宜紹介する。				
履修条件	本授業に関連する基礎的な知識を有すること。				
評価方法・基準	15回の講義におけるレポートで評価し、上位10回分の点数の平均を成績とする。				
使用言語	「日本語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト				
実務経験を活かした授業	非該当				